

2月のハイライト

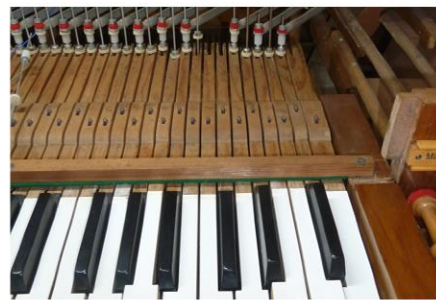
- ・ 上鍵盤アクションの再組立
- ・ オルガン内部&周辺環境の調査
- ・ オルガンケース扉の設計&発注

➤ 上鍵盤アクションの再組立

上鍵盤用チェストの組立に続き、上鍵盤からチェストまで繋がっているアクションの再組立を始めました。Vol.2でも御報告しましたが、このオルガンは元々必要以上に摩擦や鍵盤反力を引き起こしてしまう構造・材料選定が数多く確認されていました。これらは演奏時の手指への負担に直結する問題であり、今回はこれも改善するため、使われている部品や構造も大きく変更を行いました。現在はその改善版の部品を改めて組む作業を進めています。元々あった部品をただ元に戻す作業ではないため、試行錯誤を続けながらとなり時間が必要になります。3月半ばまでこの作業を進める予定です。



上鍵盤アクションの一部



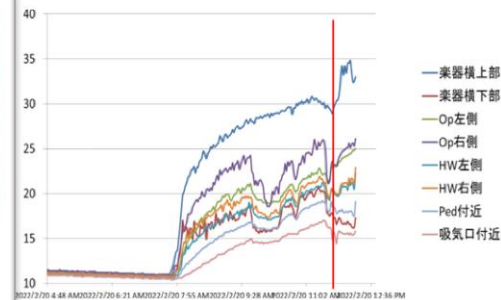
鍵盤と合わせて調整実施

➤ オルガン内部&周辺環境の調査

2月は一年でも最も寒い時期ということで、オルガン内部・周辺箇所の気温・湿度の調査を実施しました。高校物理でも学ばれた方は多いと思いますが、オルガンのパイプから鳴る音の高さはパイプ自体の長さや音速によって決まります。そして音速は気温によって変動します。オルガンを調律する際はなるべく温度を一定にしてから行いますが、調律後でも一部分だけ極端に暖かくなりやすいなどの条件ではそのパイプだけピッチが上がってしまい、調律が狂ったように聞こえてしまいます。このため、パイプが設置される複数箇所での温度変化がどうか、そうでないかを調べる必要があります。また湿度変化もオルガンを健康に保つ上で重要です。高湿度に長く置かれると革やニカワにカビが発生しますし、逆に乾燥はひび割れなどに直結するため避けなければなりません。人間でも快適な50%前後がオルガンにとっても好ましい環境です。今回冬季での調査を行い、また夏季にも同様のことを実施して対策の有無などを考えていきます。



ロガーで温度変化を記録



計測結果の一例
(礼拝開始前後での温度推移)

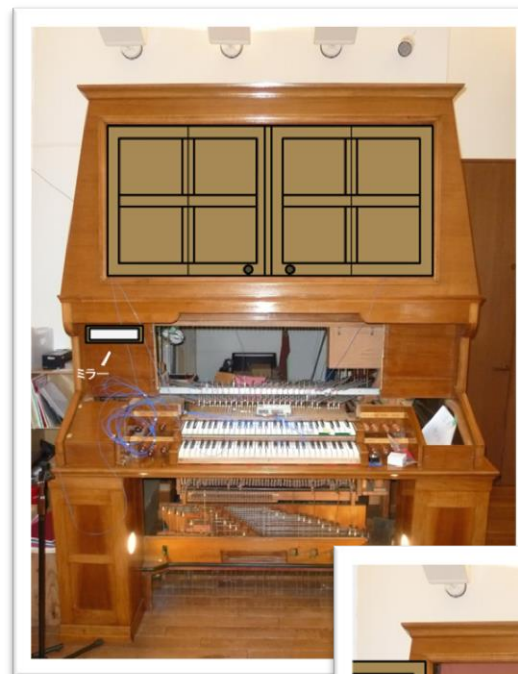
▶ オルガンケース扉の設計&発注

Vol.3でも御報告の通り、このオルガンに付いていたスウェルシャッターは今回除去し、代わりに扉を設置します。この扉はオルガンの新しい顔となる部分でもあり、既存のオルガンケースとの木目・色合わせなどが厳密に行われる必要があります。このため、重田の元同僚である星野諭生さんに製作を依頼することに致しました。藝大で工芸を学ばれ、現在は木工に携われているということで適任と考え、お願い致しました。

それに先立ち、既存ケースの調査とデザインを行いました。ケースの随所に用いられる十字のデザインを踏襲し、全体の調和を保つ設計にしています。また扉と併せて、演奏台背後を確認するためのミラーも併せて製作いただくことにしました。配餐の際などに奏者が会堂の状況を確認を行うために望まれていたもので、こちらもケースとのデザインの調和がとれたデザインで製作します。



オルガンケース寸法を調査中



通常時



ミラー

演奏時